大新聞・テレビに再び問う「支持率調査」がジャーナリズムか!?

連日報じられる鳩山由紀夫・首相や小沢一郎・民主党幹事長らの会見における大メディアの〝常套質問〟は、「世論は支持していないが、あなたはどう受け止めるのか」である。「皆がいっている」ことが彼らにとっての、ほとんど唯一の正義の拠り所であり、その前では政策も法律も無視して構わないといっているも同然なのだ。この「世論」の製造過程には大メディアの狡猾な作為が組み込まれている――。

報道機関としての〝自殺〟

大新聞とテレビの「世論調査報道」の氾濫はとどまることを知らない。

朝日新聞は、普天間基地の移設問題で〈県内移設となったら「約束違反だ」との意見は61％〉（5月17日付朝刊）と1面トップで報じ、読売新聞も、